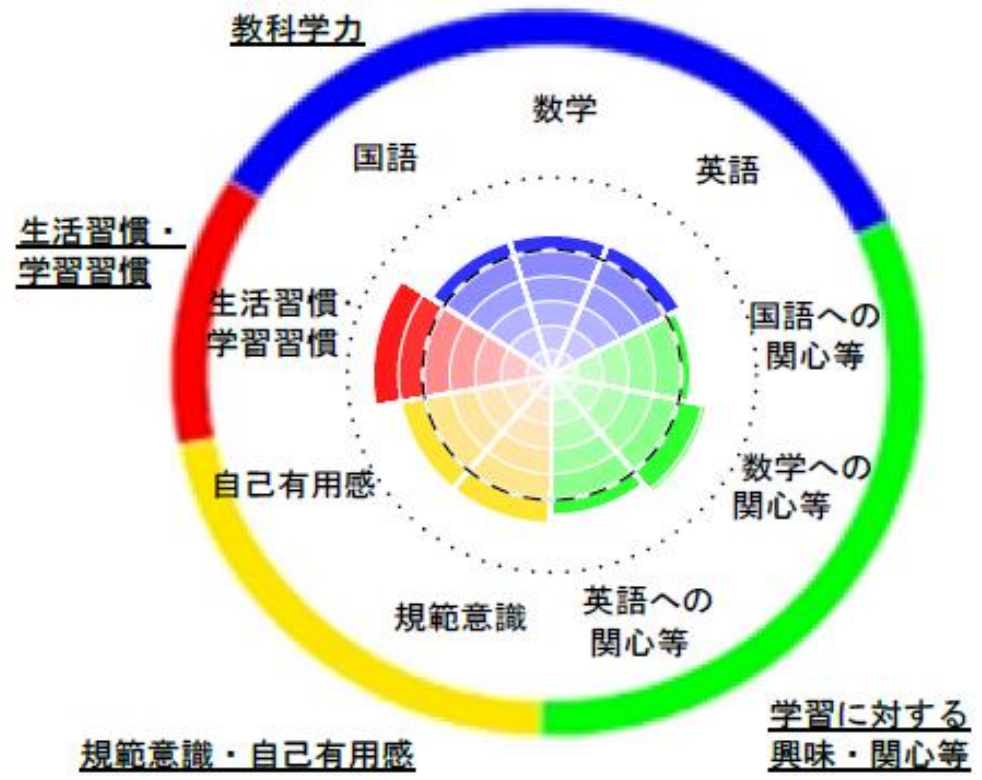


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○昨年度の県学力調査の結果を受け、話す・聞くについての対策を実践し、その成果が出ている。 ○日頃から書く活動を取り入れているため、書くことへの抵抗感が低い。 ●封筒の宛名書きの正解率が低かった。	・グループ学習の中で、自分の考えを発表し、さらに仲間の発言に対する感想を述べることに加え、質問を返していくような活動を継続していく。 ・手紙の書き方と合わせて、宛名の書き方を学習する場を設ける。
数学	○中・上位層が多く、多くの設問で全国を上回っている。 ○無回答率が低く、殆どの設問で全国の結果より良い。数学に対して興味関心のある生徒が多く、概ね問題に対して粘り強く取り組んでいることがうかがえる。 ●証明問題に苦手意識をもっていたり、証明の流れをきちんと理解できていなかったりする生徒の割合が高い。三角形の合同条件と直角三角形の合同条件をきちんと区別して理解できていない。	・引き続き小テスト、計算力テストなどを活用してドリル学習に取り組み、基礎・基本の更なる定着を図る。 ・問題文から数学的思考に必要な要素が取り出せるよう、少し長い問題文も読み込んだり、図やグラフ等の情報と問題文をあわせて読んだりして、情報を的確につかむことが身につくような授業展開を取り入れる。
英語	○全体的に全国平均を上回り、語彙や語法などの基礎的な力や読解力が身につけている生徒が多い。 ○学習への関心が高く、意欲的に英語を使って表現しようとする生徒が多い。	・日頃から表現力(英語で書く・伝える)の定着を図る指導を意識した授業を展開している成果が表れていると考えられるので、今後も表現力を高める活動を続けていく。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



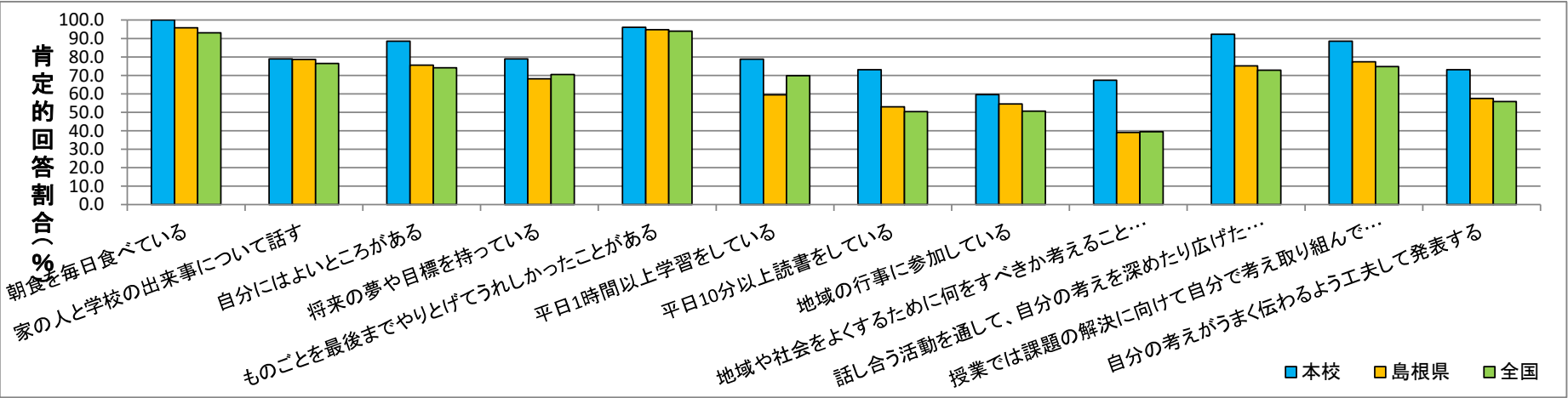
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
○グループによる話し合い活動を様々な場面で積極的に取り入れていることにより、自分の考えをまとめたり、うまく相手に伝えるために工夫する習慣がついてきている。 ○生徒個々が認められる活動が多く設定されていることで、自己肯定感が高い生徒が多いと考えられる。 ●家庭学習の習慣がついていない生徒が、2割も存在している。	・今後もグループ活動を有効に活用していく。 ・予習・復習の大切さや効果的な学習方法をわかりやすく伝え、計画的な学習が身につくようにする。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・家庭学習の課題で、反復練習のみの課題だけではなく、次回の授業に結びつくような、思考をともなう課題内容を工夫する。 ・これからの学習や生活場面と結びつけた、授業の位置づけや、意味づけを生徒に伝えて、より一層主体的に学ぶ授業づくりを継続する。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	78	73	73	72.8
数学	65	60	57	59.8
英語	60	54	53	56.0

受検者数 51 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。